

# 非合理現象信奉尺度の作成

—その信頼性と妥当性の検討（第1報）\*—

丹治哲雄\*\*・青木忠明\*\*\*

## Construction of a Scale of Attitude toward Paranormal Phenomena and its Reliability and Validity I

Tetsuo Tajimi and Nariaki Aoki

### 1. 緒言

最近、青少年たちを取り込むカルト集団の話題がマスコミ等をにぎわしている。とりわけ高学歴にある青年たちのカルト集団への傾倒も大きな話題となった。大学という場での青少年の非合理現象信奉に関する基礎的資料の蓄積とその分析は必要な作業といえるであろう。

筆者らは、1991年から大学生の非合理現象信奉に関する幾つかの資料を蓄積してきた（例えば、丹治・落合・渡辺・秋山，1991；丹治，1996；丹治，1997；丹治・青木・吉永・井口・野口，1998；丹治，1999など）。

非合理現象信奉の程度を測定するための代表的な尺度として、アメリカのTobacyk & Milford (1983) による Paranormal Belief Scale (1991年に改訂版を発表) を、また、我が国では、中島・佐藤・渡邊 (1993) による日本版・超自然現象信奉尺度をあげることができる。Tobacykらの尺度は、7因子からなる尺度（①伝統的宗教信念、②超能力、③魔術、④迷信、⑤心靈主義、⑥超常生命体、⑦予知）であり、また、中島らによる尺度は、①迷信因子、②霊因子、③超能力因子、④超生命・超文明因子の4因子からなる尺度になっている。

筆者らも、大学生の非合理現象信奉に関する研究の一環として、独自に非合理現象信奉の程度を測定するための尺度作成を試みた。本報告では、(1) 「非合理現象信奉尺度 (VER.1.0)」の作成のプロセスについて報告し、また、(2) その尺度の信頼性と妥当性に関する幾つかの検討結果についても併せて報告する。

\* 本稿の前半部分は、「非合理的現象信奉に関する研究 (1) 非合理的現象信奉尺度 (試作版) の作成と青少年の非合理現象に対する態度測定」と題して、1997年度文教大学生生活科学研究生活科学研究発表会 (1997年12月19日・文教大学) で発表した。

\*\* 文教大学人間科学部人間科学科

\*\*\* 1997年度文教大学人間科学部人間科学科卒・1998年度文教大学人間科学部研究生・(現) 日本大学大学院文学研究科博士前期課程1年

## 2. 調査票の作成

### 2-1. 予備質問票の作成

男女大学生14名・大学院生3名・教員1名の合計18名で、非合理的な事柄に対する態度についての意見項目を出し合った。たとえば、「幽霊の存在を信じている」、「星占いを信じている」、「茶柱が立つといいことがある気がする」といった意見項目である。意見項目提出の際には、生活の中に慣習化している行事等以外の宗教・信仰に関する項目は除外したが、その他に特別な制限は設けなかった。その結果、219項目の意見項目が提出された。その後、重複項目等の削除や文章の調整等を行い、最終的に115項目を確定した。回答者の評定には、この115項目の意見項目それぞれに、「全くそうだ」(7点)、「どちらでもない」(4点)、「全くそうではない」(1点)の7段階で評定する7件法を採用した。その後、表紙に「超常現象等に対する態度測定」というタイトルを冠する予備調査票を作成した。

### 2-2. 予備調査期間と調査対象者

予備調査は1997年7月11日から同年10月29日までの期間に実施した。調査対象者は、高校生以上(15歳以上)で上限の年齢を30歳程度までとした。調査票は430部配布して234部を回収した。回収率は54.4%であった。回答者の性別・年齢等を表1に、また、回答者の属性等を表2に示す。回答者の平均年齢は男性21.9歳(標準偏差=2.7)、女性20.8歳(標準偏差=3.5)であった。

表1. 回答者の性別・年齢・人数など

年齢	15才-20才	21才-40才	合計
男性	25名	50名	75名
女性	76名	79名	155名
不明	—	—	4名
合計	101名	129名	234名

表2. 回答者の属性と人数

	男性	女性	合計
高校生	1名	30名	31名
専門学校生	2名	2名	4名
大学生	38名	79名	117名
大学院生	14名	2名	16名
社会人	9名	31名	40名
その他	11名	11名	22名
不明	—	—	4名
合計	75名	155名	234名

### 2-3. 予備調査結果の概略

#### (1) 結果処理

予備調査結果の分析の対象にしたのは、回収した234名分のデータのうち、無効回答票37名分を除いた197名分のデータである。

ここで扱う総得点とは、115項目それぞれに割り振られた1点から7点までの評定尺度値を合計した値である。7段階評定質問票の115項目であるので、非合理現象に対して最も否定的な意見・態度をもっていれば、1点×115項目の115点(下限点)、最も肯定的であれば、7点×115項目の805点(上限点)の得点分布になる。中間点は、4点×115点の460点である。

## (2) 予備調査結果

表3に、予備調査で用いた質問項目115項目の総得点の基礎統計量を、また、図1にその度数分布図をしめす。平均得点は、7段階評定の間中点（460点）よりも、やや低い423.28点であり、平均点を中心とした正規分布型の得点分布を示した。

表3. 予備調査結果に関する基礎統計量

人数	197名
平均値	423.28点
標準偏差	102.29点
最大得点	676点
最小得点	175点

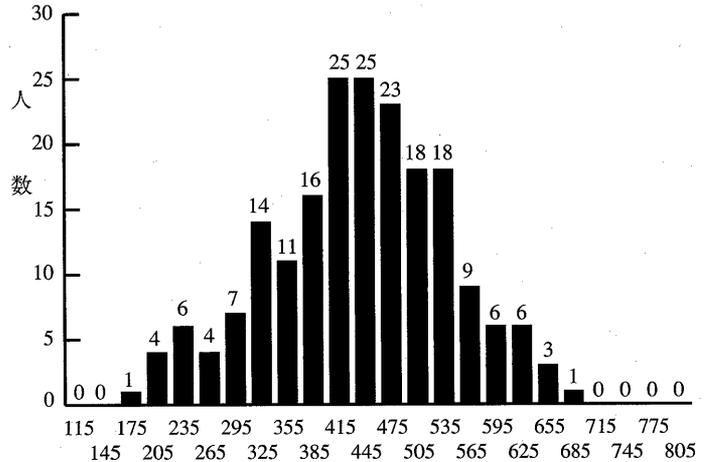


図1. 115項目総得点の度数分布図（115点－805点）

## 3. 非合理現象信奉尺度（VER.1.0）の作成

次に、予備調査で用いた115項目を用いて因子分析等によって項目を絞り込み、「非合理現象信奉尺度（VER.1.0）」を作成することにした。

### 3-1. 「天井効果項目」と「フロア効果項目」の削除

まず、115項目の平均値と標準偏差を算出し、さらに各項目の平均値±標準偏差を算出した。平均値+標準偏差の値が尺度上限値である7.00を越えた項目は「天井効果項目」として、また、平均値-標準偏差の値が尺度下限値である1.00以下になった項目は「フロア効果項目」として削除することにした。その結果、115項目のうち、4項目が「天井効果項目」として、また、23項目が「フロア効果項目」として削除され、残りの88項目がその後の分析の対象になった。

### 3-2. 因子分析

上記88項目を用い主成分分析法によって因子を抽出した。その結果、固有値と項目の意味合いから2因子解を適当と判断した。また、この2因子間での相関が高いことが予測されたので、ここではプロマックス回転による因子分析を行った。因子ごとの各項目の因子負荷量絶対値が0.4000以上になるように項目を削除しながら何回かの因子分析を繰り返した。最終的な結果を表4に示す。

以上の因子分析によって88項目の中から、因子Ⅰに属する項目群22項目、因子Ⅱに属する項目群14項目の計36項目を抽出することができた。また、各因子に属する項目内容の解釈から因子Ⅰを「超常現象信奉因子」、因子Ⅱを「生活慣習因子」と命名することとした。

### 3-3. 上位下位分析 (GP 分析)

以上、因子分析の結果から、表4の36項目が「非合理現象信奉尺度 (VER.1.0)」を作成する際の候補項目となったが、さらに不適格項目の吟味を行うために、上位下位分析 (GP 分析) を行った。

ここでは、234名の回答者のうち229名の有効回答者を対象に因子別に各被験者の項目合計得点を算出し、上位得点群57名 (上位1/4) と下位得点群57名 (下位1/4) を抽出した。その後、1項目ずつの平均値の間に両群の差が見られるかどうかをt検定によって検討した。上位下位分析 (GP 分析) の結果を表5および表6に示す。

表4. 非合理現象信奉項目に関する因子分析結果 (プロマックス回転後の因子負荷量)

質問項目	因子 I	因子 II	共通性
049.超能力者はいると思う	0.80620	-0.03775	0.620006
045.ポルターガイストは実際にあると思う	0.78403	-0.16561	0.508229
008.念写ができる人はいると思う	0.75914	-0.10815	0.503319
012.幽霊の存在を信じている	0.74450	0.03397	0.581521
005.透視ができる人はいると思う	0.73730	-0.14315	0.455255
031.幽霊を見ることのできる人がいると思…	0.68936	0.18325	0.639079
063.前世の記憶を持つ人たちはいると思…	0.67040	0.04316	0.481144
019.手かざしによるヒーリング (霊的治療…	0.64836	-0.04536	0.392102
064.ナスカの地上絵は宇宙人が描いたと思…	0.61820	0.05557	0.420694
111.人形の髪の毛がのびるのは霊的な力に…	0.61186	0.10050	0.447884
079.ツタンカーメンの墳墓の調査に関係し…	0.60665	0.10678	0.446227
099.背後霊や守護霊は存在すると思…	0.60555	0.28138	0.621574
041.スプーン曲げで有名なユリ・ゲラーの…	0.59867	-0.04610	0.332073
057.宇宙から高度な文明をもった生命体が…	0.59068	-0.06141	0.315269
053.ミステリーサークルは宇宙人が作った…	0.59016	0.06408	0.391400
021.イタコなどに死者の霊がのりうつる現…	0.58695	0.01256	0.352271
025.幽体離脱を経験した人はいると思…	0.56690	0.21781	0.496155
036.ピラミッドには特別なパワーがあると…	0.55401	0.02085	0.319278
076.超常現象やオカルト現象には大変興味…	0.54991	0.03879	0.325899
071.超能力は自分の中にあるが、開発され…	0.53896	0.07221	0.335823
010.気功にはある特定の病気に対する治療…	0.49987	0.02045	0.260834
114.夢が現実になるのは予知能力の一つだ…	0.48353	0.26935	0.440663
022.受験時に神社にお参りをするのはあた…	-0.25276	0.77981	0.468719
088.家を建てる前のおはらいは当たり前だ…	0.03605	0.68811	0.500383
017.星占いでよいことが書かれていると本…	0.03190	0.66854	0.469958
040.厄年のおはらいはした方がいいと思…	0.03598	0.66326	0.465820
037.葬式から帰って塩で清めないと思…	0.00054	0.65528	0.429760
016.初詣に行くと、その年には良いことが…	-0.06783	0.62062	0.346354
081.結婚式は大安にした方がいいと思…	-0.01338	0.61091	0.364958
004.星占いを信じている	0.12464	0.60136	0.454469
030.茶柱が立つといいことがある気がする…	0.03972	0.59197	0.376258
018.墓参りにいかない人には先祖のバチが…	0.04324	0.59055	0.376948
006.神社仏閣の所有物を壊したら、たたり…	0.15364	0.58946	0.464459
024.縁起をかつぐ方である	-0.01707	0.57854	0.324811
070.お守りや護符には御利益があると思…	0.15587	0.56963	0.440335
100.霊柩車をみると親指を隠してしまう	0.00034	0.43912	0.192983

因子間相関=0.51564

表5. 因子Ⅰ「超常現象信奉因子」項目群（22項目）の上位下位分析（GP分析）の結果  
上位得点群57名・下位得点群57名

質問項目	下位群平均得点	上位群平均得点	t値	自由度	有意確率
049.超能力者はいると思う	2.04	5.91	14.957	112	0.0000
045.ポルターガイストは実際	1.90	5.25	11.566 †	101.72	0.0000
008.念写ができる人はいる	1.47	4.72	14.331 †	97.44	0.0000
012.幽霊の存在を信じている	1.83	6.26	20.804	112	0.0000
005.透視ができる人はいる	1.75	4.91	11.538	112	0.0000
031.幽霊を見ることのできる	2.37	6.58	17.206 †	74.59	0.0000
063.前世の記憶を持つ人たち	1.84	5.07	11.597 †	99.38	0.0000
019.手かざしによるヒーリン	1.54	4.33	11.832 †	91.90	0.0000
064.ナスカの地上絵は宇宙人	1.63	4.40	10.441 †	94.00	0.0000
111.人形の髪の毛がのびるの	1.56	5.26	12.749 †	104.32	0.0000
079.ツタンカーメンの墳墓の	1.95	5.25	11.482	112	0.0000
099.背後霊や守護霊は存在す	1.72	5.74	17.180	112	0.0000
041.スプーン曲げで有名なユ	1.37	3.91	9.970 †	79.35	0.0000
057.宇宙から高度な文明をも	1.84	4.41	8.602	112	0.0000
053.ミステリーサークルは宇	1.44	4.28	10.932 †	87.05	0.0000
021.イタコなどに死者の霊が	1.65	4.25	9.599 †	97.07	0.0000
025.幽体離脱を経験した人は	2.75	6.00	11.404 †	100.71	0.0000
036.ピラミッドには特別なパ	2.28	4.95	8.636	112	0.0000
076.超常現象やオカルト現象	1.70	4.68	10.102	112	0.0000
071.超能力は自分の中にある	1.88	5.09	10.005	112	0.0000
010.気功にはある特定の病気	3.32	5.54	8.596 †	91.28	0.0000
114.夢が現実になるのは予知	2.61	5.77	10.867 †	95.14	0.0000

†印はWelchのt検定を適用

表6. 因子Ⅱ「生活慣習因子」項目群（12項目）の上位下位分析（GP分析）の結果  
上位得点群57名・下位得点群57名

質問項目	下位群平均得点	上位群平均得点	t値	自由度	有意確率
022.受験時に神社にお参りを	2.32	5.68	12.755 †	104.88	0.0000
088.家を建てる前のおはらい	3.19	6.37	11.482 †	81.42	0.0000
017.星占いでよいことが書か	3.26	6.32	10.966 †	87.55	0.0000
040.厄年のおはらいはした方	2.77	5.88	10.264	112	0.0000
037.葬式から帰って塩で清め	2.56	6.25	15.320 †	97.40	0.0000
016.初詣に行くと、その年に	1.86	4.97	11.915	112	0.0000
081.結婚式は大安にした方が	3.19	6.23	9.026 †	103.28	0.0000
004.星占いを信じている	2.44	5.58	12.675 †	104.59	0.0000
030.茶柱が立つといいことが	3.26	6.46	11.036 †	81.65	0.0000
018.墓参りにいかない人には	2.51	5.32	9.077	112	0.0000
006.神社仏閣の所有物を壊し	2.97	6.19	12.273 †	84.14	0.0000
024.縁起をかつぐ方である	2.97	5.67	9.314	112	0.0000
070.お守りや護符には御利益	3.26	5.99	9.831 †	87.85	0.0000
100.霊柩車をみると親指を隠	1.60	4.63	8.717 †	84.73	0.0000

†印はWelchのt検定を適用

以上、因子ごとに上位下位分析（GP分析）を行ったところ、どの項目も上位得点群と下位得点群の間に顕著な有意差が認められた。そのため、上位下位分析（GP分析）からは「非合理現象信奉尺度（VER.1.0）」を作成する際の候補項目36項目すべてが適格項目と判断された。

### 3-4. 項目全体分析（IT分析）

上位下位分析（GP分析）の結果から、候補項目36項目すべてが適格項目と判断されたが、さらに不適格項目の吟味を行うために、次の段階として項目全体分析（IT分析）を行ってみた。ここでは、229名の回答者ごとに因子別の合計得点（Total）を算出し、各単一項目（Item）との間でピアソンの相関係数を算出した。相関係数の低い項目は不適格項目と判断されることになる。項目全体分析（IT分析）の結果を表7および表8に示す。

表7. 因子Ⅰ「超常現象信奉因子」項目群  
（22項目）の項目全体分析（IT分析）の結果

質問項目	ピアソンの 相関係数
049.超能力者はいると思う	0.783
045.ポルターガイストは実際	0.702
008.念写ができる人はいる	0.693
012.幽霊の存在を信じている	0.773
005.透視ができる人はいる	0.650
031.幽霊を見ることのできる	0.788
063.前世の記憶を持つ人たち	0.703
019.手かざしによるヒーリン	0.641
064.ナスカの地上絵は宇宙人	0.657
111.人形の髪の毛がのびるの	0.672
079.ツタンカーメンの墳墓の	0.676
099.背後霊や守護霊は存在す	0.772
041.スプーン曲げで有名なユ	0.574
057.宇宙から高度な文明をも	0.583
053.ミステリーサークルは宇	0.644
021.イタコなどに死者の霊が	0.601
025.幽体離脱を経験した人は	0.703
036.ピラミッドには特別なパ	0.592
076.超常現象やオカルト現象	0.600
071.超能力は自分の中にある	0.603
010.気功にはある特定の病気	0.532
114.夢が現実になるのは予知	0.653

表8. 因子Ⅱ「生活慣習因子」項目群  
（14項目）の項目全体分析（IT分析）の結果

質問項目	ピアソンの 相関係数
022.受験時に神社にお参りを	0.666
088.家を建てる前のおはらい	0.720
017.星占いでよいことが書か	0.699
040.厄年のおはらいはした方	0.691
037.葬式から帰って塩で清め	0.687
016.初詣に行くと、その年に	0.608
081.結婚式は大安にした方が	0.616
004.星占いを信じている	0.685
030.茶柱が立つといいことが	0.650
018.墓参りにいかない人には	0.643
006.神社仏閣の所有物を壊し	0.700
024.縁起をかつぐ方である	0.607
070.お守りや護符には御利益	0.675
100.霊柩車をみると親指を隠	0.517

以上、表7と表8に示すように、いずれの項目（Item）も因子別の合計得点（Total）との間に高い相関が得られた（超常現象信奉因子で最低値で0.572、生活慣習因子で0.517）。そのため、項目全体分析（IT分析）からも「非合理現象信奉尺度（VER.1.0）」を作成する際の候補項目36項目すべてが適格項目と判断された。

### 3-5. 非合理現象信奉尺度（VER.1.0）の作成

以上、因子分析・上位下位分析（GP分析）・項目全体分析（IT分析）を経て、36項目を用いた「非合理現象信奉尺度（VER.1.0）」を作成した。実際に作成した「非合理現象信奉尺度（VER.1.0）」を、本論文の巻末に添付資料として掲載する。

## 4. 非合理現象信奉尺度 (VER.1.0) の信頼性と妥当性の検討

### 4-1. 信頼性の検討

#### (1) クロンバックの $\alpha$ 係数の算出

次に本尺度の  $\alpha$  係数を算出した。結果を表9に示す。二つの因子とも高い値の  $\alpha$  係数が得られ、本尺度の高い内的一貫性が確認された。

表9. 両因子の  $\alpha$  係数

超常現象信奉因子	0.936
生活慣習因子	0.893

#### (2) 再テスト法による検討

次に、再テスト法による検討を行ってみた。調査期日、被験者数等は表10に示した。

テスト間隔は約1か月間の35日間である。

表10. 再テストの期日及び被験者

測定	テスト期日	男子回答者	女子回答者	性別不明	全体	平均年齢 (標準偏差)
第1回目測定	1999年10月30日	88名	245名	0名	333名	19.09歳 (1.10)
第2回目測定	1999年12月04日	80名	234名	1名	315名	19.14歳 (1.04)

なお、分析の対象としたのは、表10に示した回答者のうち、第1回目および第2回目測定ともに回答した270名である。

因子別に第1回目、第2回目の間で平均尺度得点 (添付資料参照) 間のピアソンの相関係数を求めてみた。超常現象信奉尺度では0.8379 ( $t=25.128$ ,  $df=268$ ,  $p<0.0001$ )、生活慣習因子では0.8872 ( $t=31.476$ ,  $df=268$ ,  $p<0.0001$ )と、共に有意に高い相関が認められた。再テスト法による検討からも本尺度は安定性・一貫性をもつ尺度と言えるであろう。

### 4-2. 妥当性の検討

#### (1) 日本版・超自然現象信奉尺度 (中島・佐藤・渡邊, 1993) との比較

次に、妥当性の検討の一つとして、中島・佐藤・渡邊 (1993) による「日本版・超自然現象信奉尺度」と本尺度との関連を検討した。「日本版・超自然現象信奉尺度」は、「迷信因子 (5項目)」「霊因子 (5項目)」「超能力因子 (5項目)」「超生命・超文明因子 (5項目)」の計20項目からなる尺度であり、「そう思う」から「そう思わない」までの5段階尺度によって測定される。本分析の対象になった被験者は、男子学生88名・女子学生245名の合計333名 (平均年齢19.09歳) であり、調査は1999年10月30日に行われた。

両尺度間の相関係数を表11に示す。

表 11. 本尺度と「日本版・超自然現象信奉尺度」との相関

日本版 超自然現象信奉尺度	超常現象信奉尺度	
	超常現象信奉因子	生活慣習因子
迷信因子	0.480	0.766
霊因子	0.776	0.544
超能力因子	0.794	0.374
超生命・超文明因子	0.660	0.317

本尺度の超常現象信奉尺度と「日本版・超自然現象信奉尺度」の迷信因子の間では0.480程度の比較的低い相関しか見られなかったが、他の「霊因子」「超能力因子」「超生命・超文明因子」との間には、0.7前後の比較的高い相関が認められた。また、これとは逆に本尺度の生活慣習尺度と「日本版・超自然現象信奉尺度」の迷信因子の間では0.766と比較的高い相関が見られたが、それと比較すると他の3因子との間には比較的低い相関しか見られなかった。

本尺度の超常現象信奉尺度には、「日本版・超自然現象信奉尺度」で扱われている霊・超能力・超生命・超文明などに関連する項目が含まれており、また、本尺度の生活慣習因子に含まれる項目と「日本版・超自然現象信奉尺度」の迷信因子とは一部重なる部分があったため、こうした結果が得られたのであろう。本尺度は「日本版・超自然現象信奉尺度」の4因子とある程度対応した意見・態度を測定している尺度と言えよう。

## (2) 「不思議現象」体験との関係

次に、本尺度の妥当性の検討の一環として、日常生活の中での実際の「不思議現象」体験の有無と本尺度得点との間の関連を検討してみた。この分析では、11項目の「不思議現象」体験の有無に対して「はい」「いいえ」の2件法で回答を求めた。質問した日常生活の中での「不思議現象」は表12に示す項目を使用した。この部分の回答者は男子学生80名・女子学生234名・性別不明1名の計315名（平均年齢19.14歳）であり、調査は1999年12月4日に実施した。

また、表12には、あわせてこうした「不思議現象」体験に対して「はい」と回答した者の比率（体験率）を示した。なお、表12は「不思議現象」の体験率の高かった順に並べてある。

次に、表12に掲載した11項目に対して「はい」と回答した項目数毎に被験者をまとめて、それぞれの被験者群の非合理現象信奉尺度得点（標準偏差）を表13に示した。

超常現象信奉尺度でみると、6項目と7項目を合わせたグループを除くと「不思議現象」体験で「はい」と回答した項目数が増加するにつれて、超常現象信奉尺度の平均得点が高くなる傾向がうかがえた。6項目と7項目を合わせたグループは合計3名とその人数も少なかったので1グループとみなし1要因7水準の分散分析を行ったところ、超常現象信奉尺度得点間で有意差が認められた ( $F=4.29, df=6/307, p<0.01$ )。そこでLSD法によって多重比較を行ってみた。多重比較結果を表14に示す。こうした「不思議現象」の体験の無い回答者と2項目以上の不思議現象体験者との間に超常現象信奉尺度得点の差が認められる傾向があると言えよう。

次に日常慣習尺度を見ると、超常現象信奉尺度と同様に6項目と7項目を合わせたグループを除くと「不思議現象」体験で「はい」と回答した項目数が増加するにつれて、日常慣習尺度の平均得点が高くなる傾向がうかがえた。超常現象信奉尺度の場合と同様に1要因7水準の分散分析を行ってみたが、日常慣習尺度間では有意な差は認められなかった ( $F=1.52, df=6/307, ns$ )。

表 12. 分析に使用した「不思議現象」とその体験率

項 目	体験率
(6) 予知夢を体験したことがある。	40.8%
(7) 自分あるいは他人の行動が予言通りだったことを体験したことがある。	23.9%
(4) よく占いが当たるといふ経験をしたことがある。	22.0%
(9) 「虫の知らせ」を体験したことがある。	20.7%
(1) 幽霊（あるいは幽霊のようなもの）を見たことがある。	11.8%
(3) UFOを見たことがある。	8.3%
(5) 霊的な力によるとしか考えられない現象を見た（あるいは体験した）ことがある。	7.6%
(8) 写真を撮ったら心霊が写っていたことがある。	4.8%
(2) 超能力によるとしか考えられない現象を見た（あるいは体験した）ことがある。	3.2%
(10) たたりあるいは呪いによる被害を被ったことがある。	0.6%
(11) その他	8.6%

表 13. 「不思議現象」体験群別の平均尺度得点と標準偏差

「はい」と回答した 項目数群	人数	超常現象信奉尺度		日常慣習尺度	
		平均尺度得点	標準偏差	平均尺度得点	標準偏差
0	108	3.03	1.11	4.12	1.27
1	63	3.26	1.18	4.25	1.19
2	63	3.53	0.95	4.45	1.29
3	48	3.76	0.98	4.58	1.00
4	19	3.86	0.92	4.74	0.94
5	10	3.95	1.35	4.61	1.20
6+7	3	3.44	1.23	4.24	1.24

表 14. 超常現象信奉尺度間のLSD法による多重比較結果

	「はい」と回答した項目数群					
	1	2	3	4	5	6+7
0	ns	*	*	*	*	ns
1		ns	*	*	ns	ns
2			ns	ns	ns	ns
3				ns	ns	ns
4					ns	ns
5						ns

本表の縦軸も「はい」と回答した項目数群

以上を総括してみると、「不思議現象」体験が多いほど超常現象信奉尺度得点が高くなる傾向があり、両者の関連が認められたが、日常慣習尺度得点と「不思議現象」体験の有無やその程度とは無関係であることが示唆された。本尺度の妥当性を示すものと言えよう。

### (3) 性差の検討

次に、非合理現象信奉尺度（VER.1.0）を用いて、性差の分析を試みた。今回の分析の対象になった被験者は男子学生88名・女子学生245名の計333名（平均年齢19.09歳（標準偏差1.10））であり、調査は1999年10月30日に行われた。結果を表15に示す。

表 15. 性差の比較・平均値（標準偏差）・t値など

	男性 平均得点（標準偏差）	女性 平均得点（標準偏差）	t値	自由度	有意確率
超常現象信奉尺度	3.32 (1.29)	3.53 (1.04)	1.398 †	130.07	ns
日常慣習尺度	3.87 (1.20)	4.55 (1.17)	4.657	331	0.0000

†印は Welch の t 検定を適用

これまでの諸研究では、こうした非合理現象信奉の程度には性差が認められる傾向があること、女性の方がこうした傾向が高いことが指摘されてきた（例えば、中島・佐藤・渡邊，1993 など）。本尺度でも日常慣習尺度でこうした傾向を確認することができた。

## 5. おわりに：今後の課題

以上報告したように、筆者らの作成した36項目からなる「非合理現象信奉尺度（VER.1.0）」は、ある程度の信頼性と妥当性を持つ尺度と言ってよいであろう。また、本尺度は非合理現象信奉の異なる成分をある程度弁別して測定しうる性能を持つ尺度であることも示唆された。今後、大学生たちの非合理現象信奉の程度の継続的測定を行いながら、彼らの持つ非合理現象信奉傾向と大学教育との関係についての検討を始めたいと考えている。また、本尺度に関しても他の心理尺度との関係、日常行動との関係などの検討を含め、本尺度の妥当性の検討をさらに重ねていきたいと考えている。

### [謝辞]

本研究の前半部分は、実質的には市川公子・市原久美子・内田雅己・小野龍田・勝村恵里・小池映子・斎藤隆行・佐藤恵美子・高橋志保・田中秀明・鶴田まどか・松本由香・山崎愛（以上1997年度人間科学部心理学専修4年生）・矢倉陽子（1997年度大学院人間科学研究科臨床心理学専攻1年）との共同研究である。また、吉川延代（1997年度大学院人間科学研究科臨床心理学専攻1年）と谷中真紀（同1年）は質問票の作成作業と配布回収作業に参加した。記して謝意を表したい。

### 参考・引用文献

- 1) 安齋育郎 1995 科学と非科学の間：超常現象の流行と教育の役割 かもがわ出版
- 2) 安齋育郎 1996 人はなぜ騙されるのか：非科学を科学する 朝日新聞社
- 3) 堀洋道・山本真理子・松井豊（編）1994 心理尺度ファイル：人間と社会を測る 垣内出版
- 4) 菊地聡・谷口高士・宮元博章 1995 不思議現象 なぜ信じるか ころの科学入門 北大路書房
- 5) 中島定彦・佐藤達哉・渡邊芳之 1992 Tobacyk の「超自然現象信奉尺度（Paranormal Belief Scale）」について Journal of the Japan Skeptics.1, 73-79.
- 6) 中島定彦・佐藤達哉・渡邊芳之 1993 超自然現象信奉尺度の作成 Journal of the Japan Skeptics.2, 69-79.
- 7) 丹治哲雄・落合信仁・渡辺千歳・秋山胖 1991 『血液型性格学』に関する社会心理学的研究（1）文教大学越谷キャンパス1年生の態度測定を中心に 1991年度文教大学生活科学研究科生活科学研究

発表会発表用資料

- 8) 丹治哲雄 1996 金縛り現象に関する調査研究 (1) 大学生たちはこの現象をどうとらえているか 1996年度文教大学生生活科学研究所生活科学研究発表会発表用資料
- 9) 丹治哲雄 1997 非合理的現象信奉に関する研究 (1) 非合理的現象信奉尺度 (試作版) の作成と青少年の非合理的現象に対する態度測定 1997年度文教大学生生活科学研究所生活科学研究発表会発表用資料
- 10) 丹治哲雄・青木忠明・斎藤隆行・吉永由美子・井口紀子・野口謙一 1998 非合理現象信奉に関する研究 (2) 現代青少年の非合理現象信奉傾向・権威主義的傾向・不安傾向について 1998年度文教大学生生活科学研究所生活科学研究発表会発表用資料
- 11) 丹治哲雄 1999 非合理現象信奉に関する研究 (4) 目の前で不思議な現象が起こった時 1999年度文教大学生生活科学研究所生活科学研究発表会発表用資料
- 12) 田中敏 1997 実践心理データ解析：問題の発想・データ処理・論文の作成 新曜社
- 13) Tobacyk,J.,& Milford,G. 1983. Belief in paranormal phenomena: Assessment instrument development and implications for personality functioning. Journal of Personality and Social Psychology, 44, 1029-1037.

添付資料

以下に示す短文に対するあなたの気持ちにもっともあてはまる数字をマルでかこんでください。特に一般的な正解のようなものはありませんので、現在のあなたの気持ちにもっとも当てはまる数字を選んでください。

－選択肢－

7. 全くそうだ
- 6.
- 5.
4. どちらでもない
- 3.
- 2.
1. 全くそうではない

【超常現象信奉尺度】

- 01.透視ができる人はいる。
- 02.念写ができる人はいると思う。
- 03.気功にはある特定の病気に対する治癒力がある。
- 04.幽霊の存在を信じている。
- 05.手かざしによるヒーリング (霊的治療) を信じている。
- 06.イタコなどに死者の霊がのりうつる現象を信じている。
- 07.幽体離脱を経験した人はいると思う。
- 08.幽霊を見ることのできる人がいると思う。
- 09.ピラミッドには特別なパワーがあると思う。
- 10.スプーン曲げで有名なユリ・ゲラーの超能力を信じている。
- 11.ポルターガイストは実際にあると思う。
- 12.超能力者はいると思う。
- 13.ミステリーサークルは宇宙人が作ったと信じている。
- 14.宇宙から高度な文明をもった生命体が地球に来ている。
- 15.前世の記憶を持つ人たちはいると思う。

- 16.ナスカの地上絵は宇宙人が描いたと思う。
- 17.超能力は自分の中にあるが、開発されていないだけだと思う。
- 18.超常現象やオカルト現象には大変興味をもっている。
- 19.ツタンカーメンの墳墓の調査に関係した人が次々と早死にしたのはツタンカーメンの呪いのせいだと思う。
- 20.背後霊や守護霊は存在すると思う。
- 21.人形の髪の毛が伸びるのは霊的な力によるものだと思う。
- 22.夢が現実になるのは予知能力の一つだと思う。

**【生活慣習尺度】**

- 01.星占いを信じている。
- 02.神社仏閣の所有物を壊したら、たたりが起きると思う。
- 03.初詣に行くと、その年には良いことがおきくと思う。
- 04.星占いでよいことが書かれていると本当によいことがあるような気がする。
- 05.墓参りにいかない人には先祖のバチがあたると思う。
- 06.受験時に神社にお参りをするのはあたりまえなことだと思う。
- 07.縁起をかつぐ方である。
- 08.茶柱が立つといいことがある気がする。
- 09.葬式から帰って塩で清めないといけない感じが起きそうで不安だ。
- 10.厄年のおはらいはした方がいいと思う。
- 11.お守りや護符には御利益があると思う。
- 12.結婚式は大安にした方がいいと思う。
- 13.家を建てる前のおはらいは当たり前のことだと思う。
- 14.霊柩車を見ると親指を隠してしまう。

\*実施時には両尺度を混みにしてランダムに並べ替えるとよい。採点は下位尺度ごとに合計し、尺度毎に項目数（超常現象信奉尺度22・生活慣習尺度14）で除する。両尺度得点範囲は1～7点になる。